

結果の概要

1 出生の推移

(1) 年次推移

出生数の推移をみると、第2次世界大戦後、繰り延べられた結婚・出産による昭和22～24年の「第1次ベビーブーム」期（24年270万人）と、その時期に生まれた女性による46～49年の「第2次ベビーブーム」期（48年209万人）の2つの山がみられた後は減少傾向にあり、平成28年以降は100万人を下回って推移している（図1・統計表1）。

また、合計特殊出生率は、「第1次ベビーブーム」期には4を超えていたが、その後、急激に低下し、昭和30年頃からは2前後で推移していた（「ひのえうま」の41年を除く）。第2次ベビーブーム期の46年に2.16まで回復したが、49年に2.05と人口置換水準（同年2.11）を下回り、平成17年には1.26と過去最低を記録した。18年以降は緩やかな上昇傾向にあったが、28年以降は再び低下し、令和元年は1.36となっている。（図2・統計表1）

図1 出生数・出生率の年次推移 — 明治32～令和元年 —

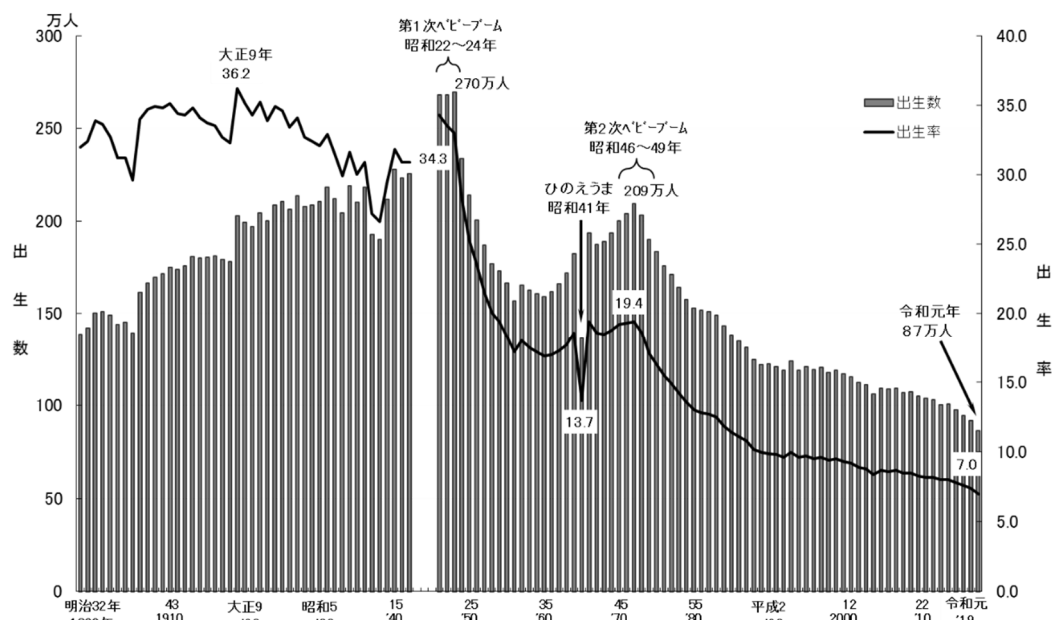
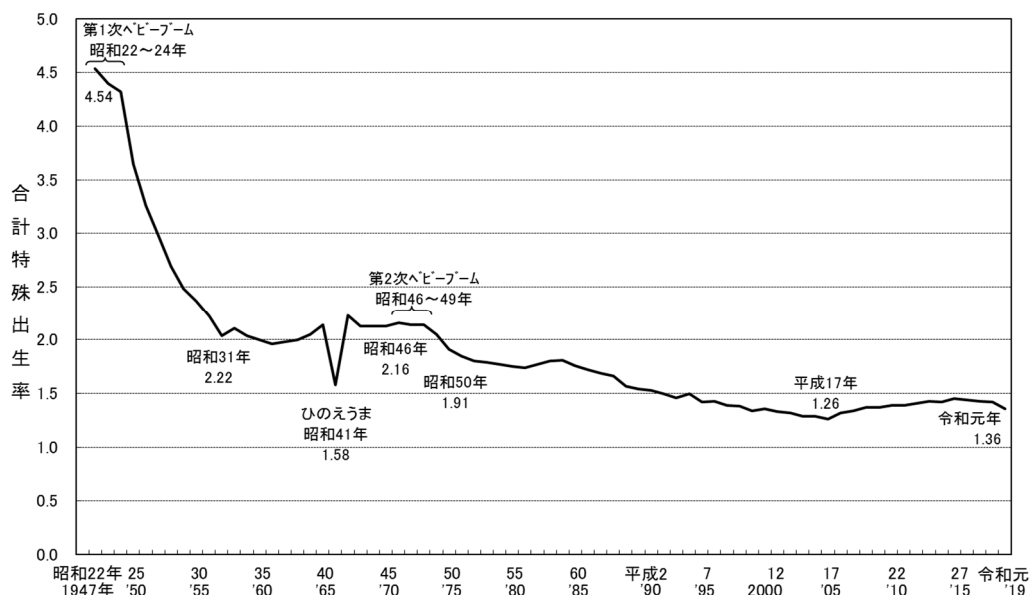


図2 合計特殊出生率の年次推移 — 昭和22～令和元年 —



(2) 年次別分析（時代による変化）

妻の平均初婚年齢は上昇傾向にあり、晩婚化が進んでいる。昭和 55 年に 25.2 歳、平成 6 年に 26.2 歳と、1 歳上昇するのに 14 年かかったところ、平成 13 年に 27.2 歳（1 歳上昇するのに 7 年）、18 年に 28.2 歳（1 歳上昇するのに 5 年）、24 年に 29.2 歳（1 歳上昇するのに 6 年）と、上昇のスピードが速かったが、令和元年に 29.6 歳と、近年は緩やかな上昇となっている。

母の出生時平均年齢も上昇傾向にあり、晩産化が進んでいる。平成 15 年に第 2 子が 30.7 歳であったが、27 年には第 1 子が 30.7 歳と 12 年間で 1 人分の差が生じている。27 年以降は第 1 子が 30.7 歳で横ばいとなっている。

父母が結婚生活に入ってから出生までの平均期間は、第 1 子及び第 2 子とともに長くなり、第 3 子については 6 年台後半で推移している。（表 1）

表 1 妻の平均初婚年齢・母の出生時平均年齢・出生までの平均期間

－ 昭和 50～令和元年 －

年次	妻の平均 初婚年齢 (歳)	母の出生時 平均年齢 (歳)			父母が結婚生活に入ってから 出生までの平均期間 (年)		
		第1子	第2子	第3子	第1子	第2子	第3子
昭和 50 年	24.7	25.7	28.0	30.3	1.55	4.09	6.67
55	25.2	26.4	28.7	30.6	1.61	4.32	6.78
60	25.5	26.7	29.1	31.4	1.61	4.23	6.97
平成 2	25.9	27.0	29.5	31.8	1.66	4.30	6.98
3	25.9	27.1	29.5	31.8	1.67	4.31	6.98
4	26.0	27.1	29.6	31.9	1.70	4.30	6.99
5	26.1	27.2	29.6	32.0	1.72	4.31	6.99
6	26.2	27.4	29.7	32.0	1.75	4.33	6.97
7	26.3	27.5	29.8	32.0	1.78	4.33	6.93
8	26.4	27.6	29.9	32.0	1.82	4.35	6.89
9	26.6	27.7	30.0	32.1	1.85	4.41	6.87
10	26.7	27.8	30.1	32.1	1.87	4.45	6.85
11	26.8	27.9	30.2	32.2	1.88	4.49	6.86
12	27.0	28.0	30.4	32.3	1.89	4.52	6.86
13	27.2	28.2	30.4	32.4	1.89	4.53	6.85
14	27.4	28.3	30.6	32.5	1.92	4.56	6.82
15	27.6	28.6	30.7	32.5	2.00	4.57	6.78
16	27.8	28.9	30.9	32.6	2.06	4.62	6.75
17	28.0	29.1	31.0	32.6	2.09	4.66	6.74
18	28.2	29.2	31.2	32.8	2.10	4.73	6.82
19	28.3	29.4	31.4	32.9	2.13	4.79	6.87
20	28.5	29.5	31.6	33.0	2.15	4.80	6.89
21	28.6	29.7	31.7	33.1	2.19	4.80	6.91
22	28.8	29.9	31.8	33.2	2.24	4.82	6.94
23	29.0	30.1	32.0	33.2	2.26	4.83	6.95
24	29.2	30.3	32.1	33.3	2.33	4.85	6.95
25	29.3	30.4	32.3	33.4	2.37	4.88	6.93
26	29.4	30.6	32.4	33.4	2.39	4.90	6.89
27	29.4	30.7	32.5	33.5	2.41	4.91	6.91
28	29.4	30.7	32.6	33.6	2.42	4.90	6.89
29	29.4	30.7	32.6	33.7	2.43	4.90	6.92
30	29.4	30.7	32.7	33.7	2.44	4.92	6.93
令和 元	29.6	30.7	32.7	33.8	2.45	4.93	6.96

注：1) 妻の平均初婚年齢は、各届出年に結婚生活に入ったものについての数値である。

2) 父母が結婚生活に入ってから出生までの平均期間は、嫡出子についての数値である。

有配偶出生率をみると、総数では平成7年まで低下した後、上昇に転じている。「15～19歳」「30～34歳」「35～39歳」は上昇している。「20～24歳」は7年まで低下した後、上昇に転じている。「25～29歳」は7年、17年と低下していたが、27年は上昇に転じている。

表2 有配偶出生率（有配偶女子人口千対）
－ 昭和50, 60, 平成7, 17, 27年 －

母の年齢階級	昭和50年	60	平成7	17	27
総数	92.7	72.7	68.0	74.4	79.5
15～19歳	289.7	438.7	559.6	569.3	588.1
20～24	347.7	341.3	322.4	351.8	374.9
25～29	241.7	261.5	233.1	223.4	247.3
30～34	76.3	98.4	122.7	135.6	176.0
35～39	16.0	19.4	30.3	49.1	82.6
40～44	2.3	1.9	3.1	6.2	15.4
45～49	0.1	0.1	0.1	0.2	0.4

注：1) 嫡出子についての数値である。
2) 総数は有配偶女子15～49歳で算出した。

第1子の有配偶出生率をみると、総数では昭和60年に低下した後、平成7年から上昇している。「15～19歳」は7年から500を超えており、有配偶女子の半数以上が第1子を生んだことになる。「20～24歳」は7年まで低下していたが、その後上昇に転じている。その他の年齢階級では、上昇傾向となっている。

【第1子有配偶出生率（有配偶女子人口千対）】

母の年齢階級	昭和50年	60	平成7	17	27
総数	41.9	30.5	32.4	35.7	37.6
15～19歳	265.4	401.1	508.0	502.2	506.2
20～24	258.8	250.6	234.1	238.9	251.6
25～29	99.3	117.6	128.2	127.0	144.6
30～34	13.6	19.3	37.7	54.4	74.9
35～39	3.1	3.8	6.9	15.5	29.3
40～44	0.5	0.4	0.7	2.0	6.0
45～49	0.0	0.0	0.0	0.1	0.2

注：1) 嫡出子についての数値である。
2) 総数は有配偶女子15～49歳で算出した。

第2子の有配偶出生率をみると、総数では平成7年まで低下した後、上昇に転じている。「25～29歳」は、昭和50年、60年に110台で他の年齢階級より高かったが、平成7年で30ポイント低下し、17年では「20～24歳」を下回った。その他の年齢階級では、上昇傾向となっている。

【第2子有配偶出生率（有配偶女子人口千対）】

母の年齢階級	昭和50年	60	平成7	17	27
総数	37.6	28.7	24.7	28.2	29.0
15～19歳	23.0	36.3	49.7	64.1	78.0
20～24	81.0	82.1	78.9	98.6	102.9
25～29	115.9	114.3	84.0	77.5	76.9
30～34	34.9	43.6	54.3	58.9	70.1
35～39	5.5	7.0	10.8	20.4	34.0
40～44	0.6	0.5	0.9	2.1	5.8
45～49	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1

注：1) 嫡出子についての数値である。
2) 総数は有配偶女子15～49歳で算出した。

第3子の有配偶出生率をみると、総数では平成17年まで低下していたが、27年は上昇している。「25～29歳」と「30～34歳」は、昭和60年には上昇したが、平成7年、17年とも低下し、27年に上昇に転じている。その他の年齢階級では、上昇傾向となっている。

(表2)

【第3子有配偶出生率（有配偶女子人口千対）】

母の年齢階級	昭和50年	60	平成7	17	27
総数	11.0	11.5	9.0	8.5	10.3
15～19歳	1.3	1.3	1.8	2.9	3.7
20～24	7.3	8.1	8.8	13.1	18.2
25～29	24.0	27.2	18.7	16.7	21.5
30～34	22.7	30.3	26.1	18.9	25.2
35～39	4.5	6.1	9.0	10.0	15.0
40～44	0.5	0.4	0.8	1.2	2.5
45～49	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1

注：1) 嫡出子についての数値である。
2) 総数は有配偶女子15～49歳で算出した。

(3) 出生コーホート別分析（世代による変化）

「コーホート」とは、ある期間に婚姻・出生等何らかの事象が発生した人を集団としてとらえたものであり、出生によるものを「出生コーホート」と呼ぶ。

合計特殊出生率は、各年において、「出生年の異なる集団」の年齢別出生率を合計したものである。合計特殊出生率を経年比較することによって、「時代による変化」を分析することができる。

これに対して、出生コーホートによる年齢別出生率の合計（累積出生率）は、「出生年の同じ集団」の出生率を合計したものであり、当該集団に属する一人の女性が、合計した年齢までの間に生む子どもの数を表す。累積出生率を比較することによって「世代による変化」を分析することができる。このような「出生年の同じ集団」に関する分析を出生コーホート別分析という。

（例）出生コーホートによる累積出生率

昭和7年生まれの集団は、昭和22年には「15歳」、昭和23年には「16歳」、…昭和56年には「49歳」になる。これらを追跡調査するのが、コーホートの考え方である。

調査年／母の年齢別 出生率

母の年齢	調査年				
	昭和22年	23年	24年	～	56年
15歳	0.0004	0.0004	0.0004		0.0001
16	0.0018	0.0022	0.0022		0.0006
17	0.0073	0.0087	0.0079		0.0021
18	0.0215	0.0245	0.0222		0.0053
19	0.0456	0.0545	0.0494		0.0116
20	0.0875	0.0975	0.0951		0.0221
⋮					
49	0.0019	0.0013	0.0007		0.0000
計	4.54	4.40	4.32		1.74

合計特殊出生率

↓
「出生コーホート」による
年齢別出生率

	昭和7年 生まれ
15歳	0.0004
16	0.0022
17	0.0079
18	0.0177
19	0.0333
20	0.0562
⋮	
49	0.0000

「出生コーホート」による
年齢別累積出生率

	昭和7年生まれ
15歳	0.0004 (0.0004)
16	0.0026 (15歳累積出生率 + 0.0022)
17	0.0106 (16 " + 0.0079)
18	0.0283 (17 " + 0.0177)
19	0.0616 (18 " + 0.0333)
20	0.1178 (19 " + 0.0562)
⋮	
49	2.0386 (48 " + 0.0000)

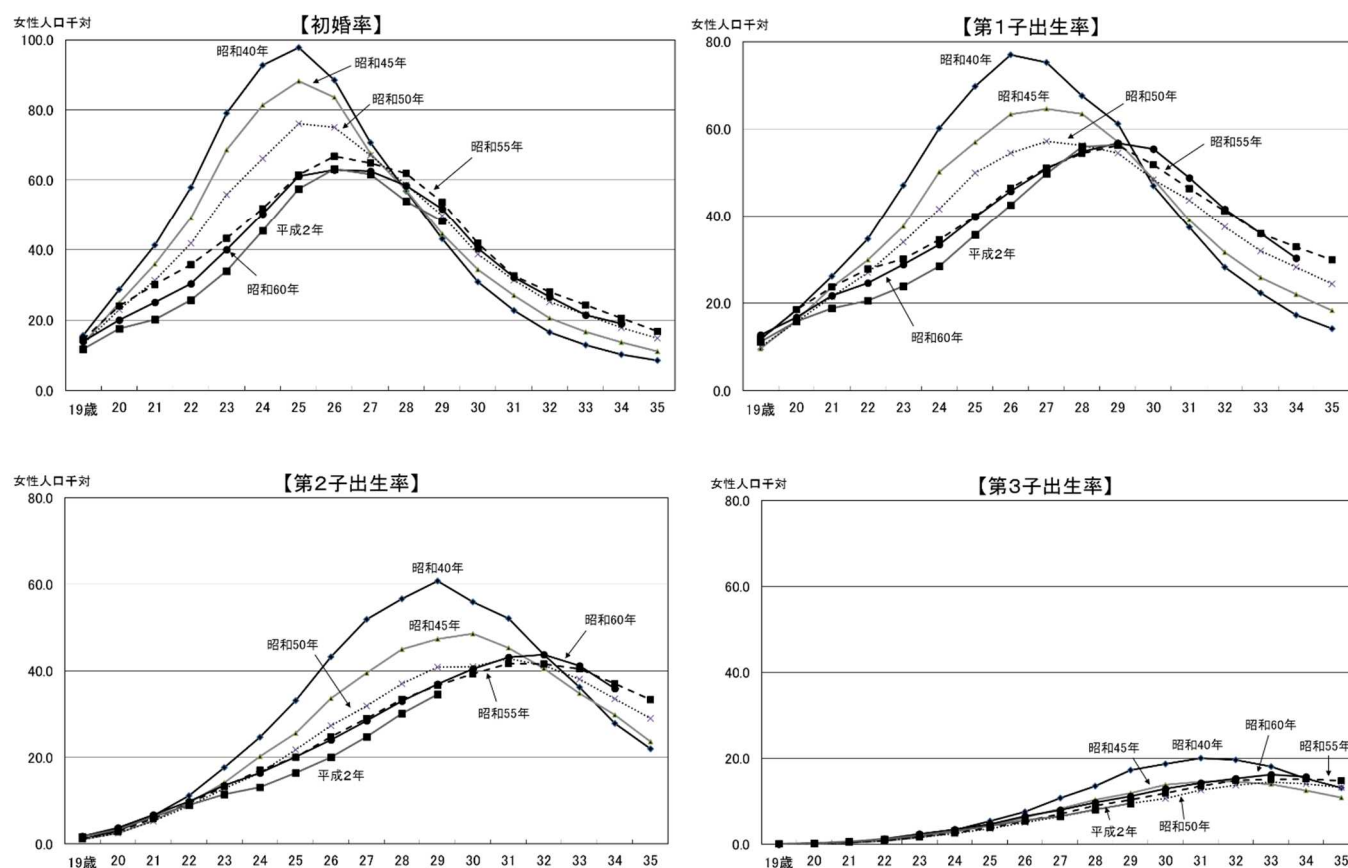
累積出生率によって世代ごとの出生率がわかる。

1) 出生コーホート別にみた年齢別初婚率・年齢別出生率

昭和40・45・50・55・60・平成2年生まれの女性について、婚姻・出生の状況をみると、昭和40年生まれの女性では、年齢別初婚率は「25歳」で高く、年齢別出生率は第1子が「26歳」、第2子が「29歳」、第3子が「31歳」で高くなっている。

世代を追うごとに年齢別初婚率と年齢別出生率のグラフは、それぞれ右下方向に動く傾向がみられる。右への動きは初婚年齢の上昇（晩婚化）と出生時年齢の上昇（晩産化）を示し、下への動きは初婚率と出生率のピークの低下を示している。昭和55年生まれ以降、年齢別初婚率は「26歳」、年齢別出生率は第1子で「29歳」で高く、晩婚化、晩産化が緩やかになっている。（図3・統計表2）

図3 出生コーホート別にみた年齢別初婚率・年齢別出生率 — 昭和40・45・50・55・60・平成2年生まれ —



注：初婚率は、各届出年に結婚生活に入ったものについての数値であり、届け出の前年以前に結婚生活に入ったものは含まれていない。

2) 出生コホート別にみた累積出生率の分析

ア 年齢別累積出生率

昭和 35・40・45・50・55・60・平成 2 年生まれの女性について年齢別累積出生率をみると、世代を追うごとにグラフは右下に動く傾向がみられる。右への動きは出生時年齢の上昇（晩産化）を示し、下への動きは累積出生率の低下を示している。

一方、昭和 45 年生まれと 50 年生まれは 44 歳の累積出生率が同水準となっており、50 年生まれ、55 年生まれと 60 年生まれの間の差は小さくなっている。（図 4）

また、第 1 子に限って累積出生率をみても同様の傾向がみられる（図 5）。

図 4 出生コホート別にみた年齢別累積出生率 — 昭和 35・40・45・50・55・60・平成 2 年生まれ —

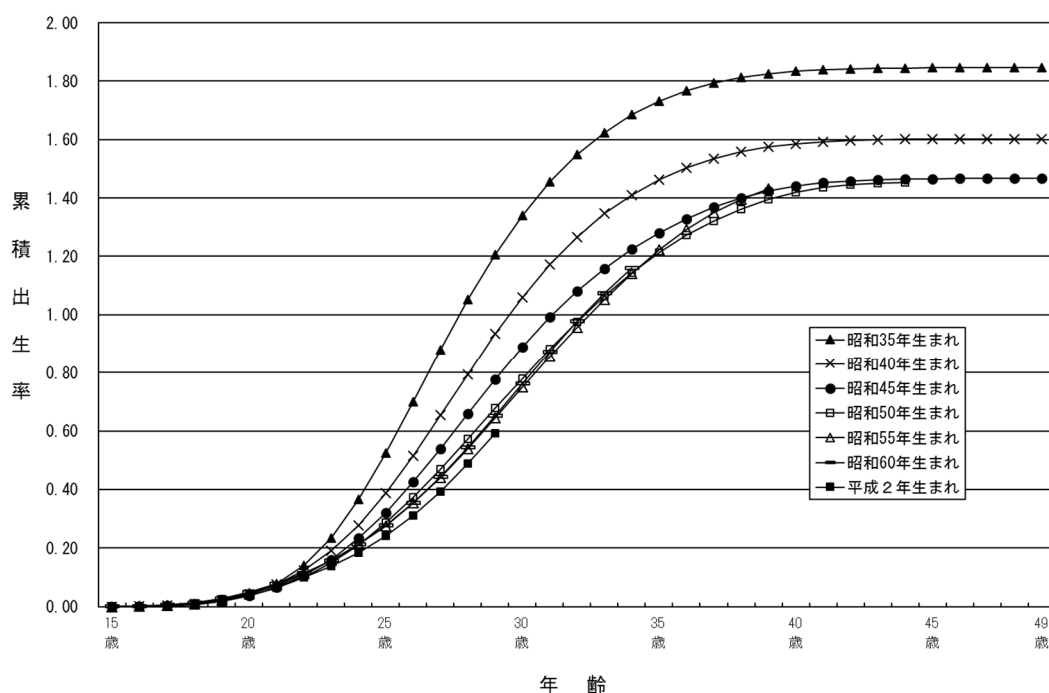
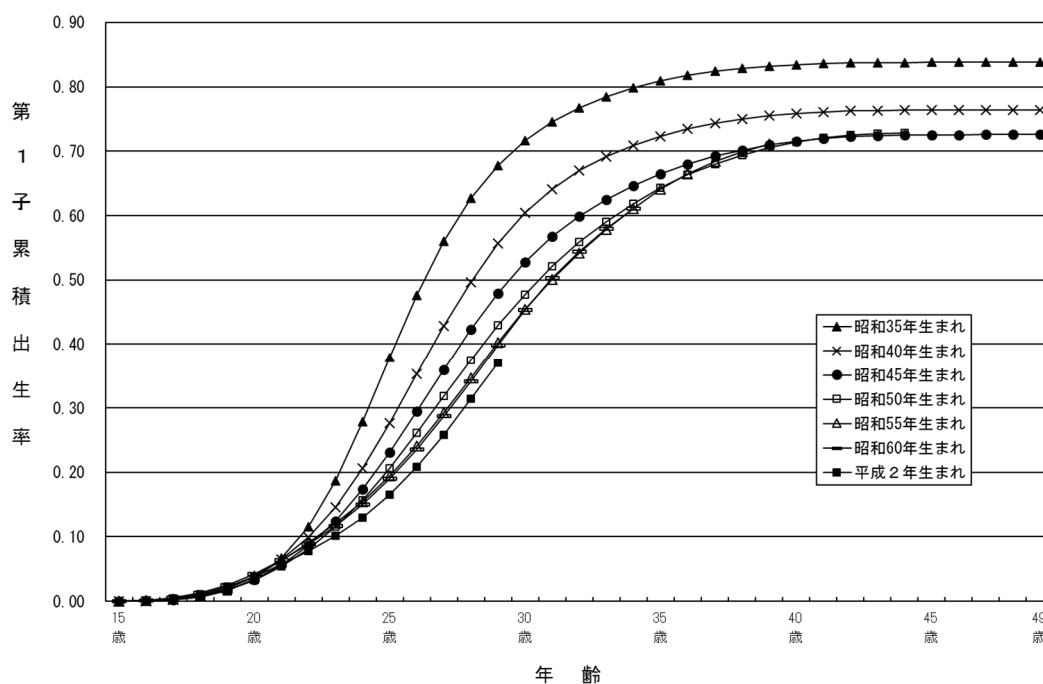


図 5 出生コホート別にみた第 1 子年齢別累積出生率 — 昭和 35・40・45・50・55・60・平成 2 年生まれ —



イ 累積出生率の年齢階級別内訳

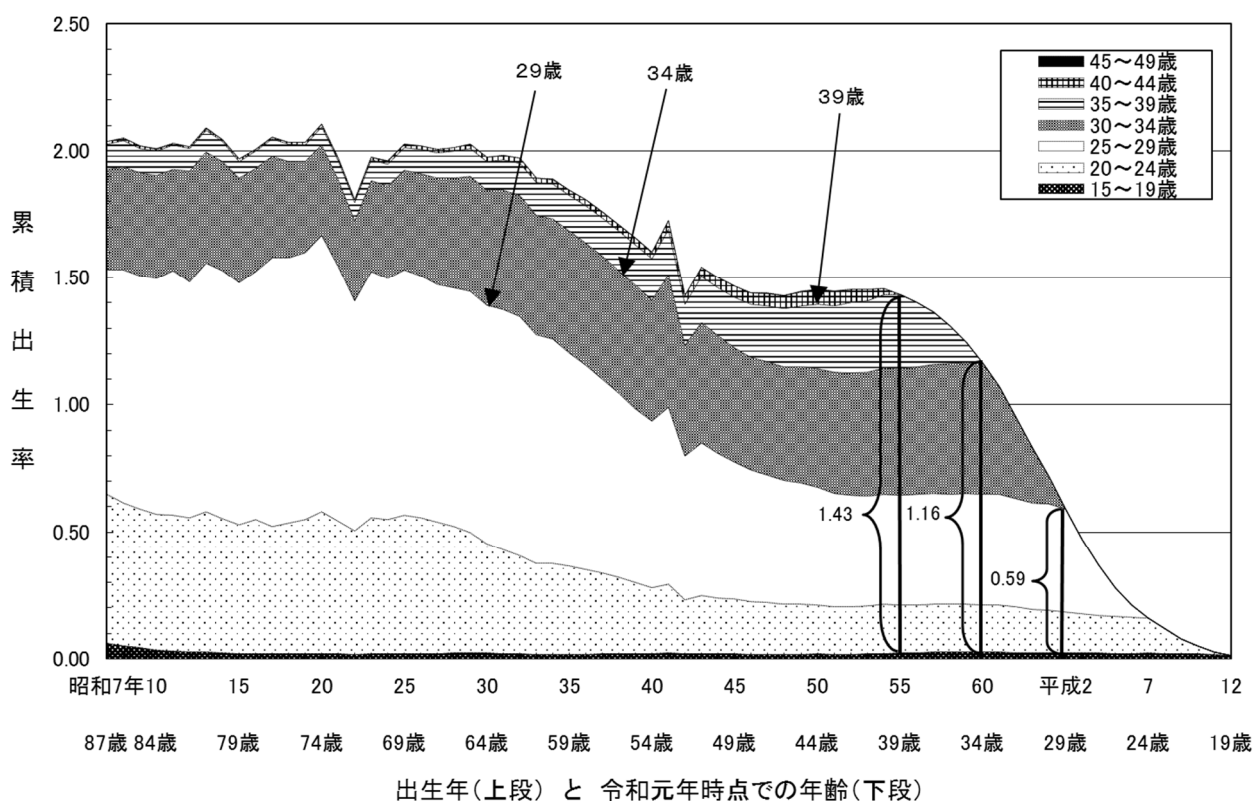
累積出生率を出生年別にみると、39 歳時点における累積出生率は、昭和 55 年生まれ（令和元年に 39 歳）の女性では 1.43 となっている。

34 歳時点における累積出生率は、昭和 60 年生まれ（令和元年に 34 歳）の女性では 1.16 となっている。

また、29 歳時点における累積出生率は、平成 2 年生まれ（令和元年に 29 歳）の女性では 0.59 となっている。

39 歳・34 歳・29 歳の各年齢における累積出生率は、昭和 30 年生まれ以降、低下傾向となっていたが、52 年生まれ以降は 60 年生まれまでほぼ横ばいで推移している。一方、29 歳の累積出生率をみると、60 年生まれ以降再び低下傾向となっている。（図 6・表 3）

図 6 出生コホート別にみた累積出生率（令和元年までの累積）



注：昭和 22 年生まれについては「第 1 次ベビーブーム」、41 年と 42 年生まれについては「ひのえうま」の影響に留意する必要がある。

表3 出生コホート別にみた累積出生率 ― 昭和7～平成7年生まれ ―

出生年		累積出生率					
		24歳	29歳	34歳	39歳	44歳	49歳
昭和 7 年生まれ (87歳)		0.65	1.53	1.93	2.03	2.04	2.04
8 (86)		0.62	1.53	1.94	2.04	2.05	2.05
9 (85)		0.59	1.51	1.91	2.01	2.02	2.02
10 (84)		0.57	1.50	1.90	2.00	2.01	2.01
11 (83)		0.57	1.53	1.93	2.02	2.03	2.03
12 (82)		0.56	1.48	1.92	2.01	2.02	2.02
13 (81)		0.58	1.56	2.00	2.08	2.09	2.09
14 (80)		0.55	1.53	1.96	2.04	2.05	2.05
15 (79)		0.53	1.48	1.89	1.96	1.97	1.97
16 (78)		0.55	1.52	1.93	2.00	2.01	2.01
17 (77)		0.52	1.58	1.98	2.05	2.06	2.06
18 (76)		0.53	1.58	1.96	2.03	2.04	2.04
19 (75)		0.55	1.60	1.96	2.03	2.03	2.03
20 (74)		0.58	1.67	2.02	2.09	2.10	2.10
21 (73)		0.54	1.54	1.89	1.96	1.97	1.97
22 (72)		0.50	1.41	1.73	1.80	1.81	1.81
23 (71)		0.56	1.52	1.88	1.97	1.98	1.98
24 (70)		0.55	1.50	1.86	1.95	1.96	1.96
25 (69)		0.57	1.53	1.92	2.02	2.03	2.03
26 (68)		0.56	1.51	1.91	2.01	2.02	2.02
27 (67)		0.54	1.47	1.89	1.99	2.01	2.01
28 (66)		0.52	1.46	1.89	2.00	2.01	2.01
29 (65)		0.50	1.45	1.90	2.01	2.03	2.03
30 (64)		0.45	1.39	1.85	1.96	1.98	1.98
31 (63)		0.43	1.38	1.85	1.96	1.98	1.98
32 (62)		0.41	1.35	1.83	1.95	1.97	1.97
33 (61)		0.38	1.27	1.75	1.88	1.89	1.89
34 (60)		0.38	1.26	1.73	1.87	1.89	1.89
35 (59)		0.37	1.20	1.68	1.82	1.84	1.85
36 (58)		0.35	1.15	1.64	1.79	1.81	1.81
37 (57)		0.34	1.10	1.59	1.74	1.76	1.76
38 (56)		0.32	1.05	1.53	1.68	1.71	1.71
39 (55)		0.30	0.99	1.47	1.63	1.66	1.66
40 (54)		0.28	0.94	1.41	1.57	1.60	1.60
41 (53)		0.29	0.99	1.51	1.69	1.73	1.73
42 (52)		0.23	0.80	1.24	1.40	1.43	1.43
43 (51)		0.25	0.85	1.32	1.50	1.54	1.54
44 (50)		0.24	0.81	1.27	1.46	1.50	1.50
45 (49)		0.23	0.78	1.23	1.42	1.47	1.47
46 (48)		0.23	0.75	1.18	1.39	1.44	
47 (47)		0.22	0.73	1.17	1.39	1.44	
48 (46)		0.22	0.70	1.15	1.38	1.43	
49 (45)		0.22	0.69	1.15	1.39	1.44	
50 (44)		0.21	0.68	1.14	1.40	1.45	
51 (43)		0.20	0.65	1.13	1.39		
52 (42)		0.20	0.64	1.12	1.40		
53 (41)		0.21	0.64	1.13	1.41		
54 (40)		0.21	0.65	1.14	1.43		
55 (39)		0.21	0.65	1.14	1.43		
56 (38)		0.21	0.65	1.15			
57 (37)		0.21	0.65	1.16			
58 (36)		0.21	0.65	1.16			
59 (35)		0.21	0.65	1.16			
60 (34)		0.21	0.65	1.16			
61 (33)		0.21	0.65				
62 (32)		0.20	0.63				
63 (31)		0.20	0.62				
平成 元 年生まれ (30)		0.19	0.61				
2 (29)		0.18	0.59				
3 (28)		0.18					
4 (27)		0.17					
5 (26)		0.17					
6 (25)		0.16					
7 (24)		0.16					

注：1) ()内の年齢は令和元年時点の年齢である。

2) 空欄は計数を得られていない。

3) 昭和22年生まれについては「第1次ベビーブーム」、41年と42年生まれについては「ひのえうま」の影響に留意する必要がある。

「35～39 歳」では、上昇しており、昭和 55 年生まれ（令和元年時点で 39 歳）の者では 0.29 となっている。（図 7・統計表 3）

注：1) 白ヌキは5年経過していない出生コーホートの令和元年までの実績である。
2) 昭和22年生まれについては「第1次ベビーブーム」、41年と42年生まれについては「ひのえうま」の影響に留意する必要がある。
3) 横軸の年齢は令和元年時点の年齢である。

ウ 出生順位別累積出生率

出生年別の累積出生率を出生順位別にみると、40歳時点における第1子の累積出生率は昭和28年生まれの者では0.90であったが、46年生まれ（0.71）まで年々低下してきており、それ以後は横ばいとなっている。また、第2子以降の累積出生率も同様となっている。

30歳時点における第1子の累積出生率は昭和28年生まれの者では0.82であったが、年々低下してきており、51年生まれから62年生まれまで横ばいであったものの、平成元年生まれでは0.43となっている。（表4）

表4 出生コホート別にみた出生順位別累積出生率

－ 40歳（昭和28～54年生まれ）、30歳（昭和28～平成元年生まれ）－

【40歳】

出生順位	昭和28年 生まれ (66歳)	29 (65)	30 (64)	31 (63)	32 (62)	33 (61)	34 (60)	35 (59)	36 (58)	37 (57)
合 計	2.01	2.02	1.97	1.97	1.96	1.88	1.88	1.83	1.79	1.75
第1子	0.90	0.90	0.88	0.88	0.88	0.85	0.85	0.83	0.82	0.81
第2子	0.78	0.78	0.76	0.76	0.75	0.72	0.71	0.70	0.68	0.66
第3子	0.28	0.29	0.28	0.29	0.28	0.27	0.27	0.26	0.25	0.23
第4子以上	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.04	0.04

出生順位	38 (56)	39 (55)	40 (54)	41 (53)	42 (52)	43 (51)	44 (50)	45 (49)	46 (48)	47 (47)
合 計	1.69	1.64	1.58	1.71	1.41	1.52	1.48	1.44	1.41	1.41
第1子	0.79	0.78	0.76	0.82	0.69	0.75	0.73	0.72	0.71	0.71
第2子	0.64	0.62	0.60	0.64	0.52	0.56	0.55	0.53	0.52	0.52
第3子	0.22	0.21	0.19	0.21	0.17	0.17	0.16	0.16	0.15	0.15
第4子以上	0.04	0.04	0.04	0.04	0.03	0.03	0.03	0.03	0.03	0.03

出生順位	48 (46)	49 (45)	50 (44)	51 (43)	52 (42)	53 (41)	54 (40)
合 計	1.40	1.41	1.42	1.41	1.43	1.44	1.46
第1子	0.70	0.71	0.71	0.71	0.71	0.72	0.72
第2子	0.51	0.51	0.52	0.51	0.52	0.52	0.53
第3子	0.15	0.15	0.16	0.16	0.16	0.16	0.17
第4子以上	0.03	0.03	0.03	0.03	0.04	0.04	0.04

【30歳】

出生順位	昭和28年 生まれ (66歳)	29 (65)	30 (64)	31 (63)	32 (62)	33 (61)	34 (60)	35 (59)	36 (58)	37 (57)
合 計	1.59	1.59	1.53	1.52	1.49	1.41	1.40	1.34	1.29	1.23
第1子	0.82	0.82	0.79	0.79	0.78	0.74	0.74	0.72	0.70	0.68
第2子	0.61	0.61	0.58	0.58	0.56	0.53	0.52	0.49	0.47	0.44
第3子	0.14	0.15	0.14	0.14	0.14	0.13	0.13	0.12	0.11	0.10
第4子以上	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01

出生順位	38 (56)	39 (55)	40 (54)	41 (53)	42 (52)	43 (51)	44 (50)	45 (49)	46 (48)	47 (47)
合 計	1.17	1.12	1.06	1.13	0.91	0.97	0.93	0.89	0.85	0.83
第1子	0.65	0.63	0.60	0.65	0.53	0.57	0.55	0.53	0.51	0.50
第2子	0.42	0.39	0.37	0.39	0.31	0.33	0.31	0.29	0.28	0.27
第3子	0.10	0.09	0.08	0.08	0.07	0.07	0.06	0.06	0.06	0.05
第4子以上	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01

出生順位	48 (46)	49 (45)	50 (44)	51 (43)	52 (42)	53 (41)	54 (40)	55 (39)	56 (38)	57 (37)
合 計	0.81	0.80	0.78	0.76	0.75	0.75	0.76	0.75	0.75	0.76
第1子	0.49	0.49	0.48	0.46	0.46	0.46	0.46	0.45	0.45	0.45
第2子	0.26	0.25	0.25	0.24	0.24	0.24	0.24	0.23	0.23	0.24
第3子	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.06	0.06
第4子以上	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01

出生順位	58 (36)	59 (35)	60 (34)	61 (33)	62 (32)	63 (31)	平成元年 (30)
合 計	0.76	0.76	0.76	0.76	0.74	0.73	0.72
第1子	0.45	0.45	0.45	0.45	0.45	0.44	0.43
第2子	0.24	0.24	0.24	0.23	0.23	0.22	0.22
第3子	0.06	0.06	0.06	0.06	0.06	0.06	0.05
第4子以上	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01

注：1）（ ）内の年齢は令和元年時点の年齢である。

2）昭和41年と42年生まれについては「ひのえうま」の影響に留意する必要がある。

エ 子を生んでいない女性の割合

出生年別に「子を生んでいない女性の割合」（１から「第１子累積出生率」を引くことによって算出）をみると、40歳時点では、昭和28年生まれの者は10.2%であったが、世代を追うごとに上昇傾向にあり、46年生まれの者は29.4%となっている。それ以後はほぼ横ばいとなっている。

また30歳時点では、昭和28年生まれの者は18.0%であったが、世代を追うごとに上昇傾向にあり、48年生まれて51.0%と5割を超え、平成元年生まれは56.6%となっており、昭和48年以降に生まれた女性については、約半数が30歳時点で子を生んでいない。（表5）

なお、女性の未婚率も年を追うごとに上昇している（参考）。

表5 出生コーホート別にみた子を生んでいない女性の割合
－ 40歳（昭和28～54年生まれ）、30歳（昭和28～平成元年生まれ）－

【40歳】											(%)
	昭和28年 生まれ (66歳)	29 (65)	30 (64)	31 (63)	32 (62)	33 (61)	34 (60)	35 (59)	36 (58)	37 (57)	
子を生んでいない 女性の割合	10.2	10.0	12.5	12.1	12.3	15.4	15.2	16.6	17.7	18.9	
	38 (56)	39 (55)	40 (54)	41 (53)	42 (52)	43 (51)	44 (50)	45 (49)	46 (48)	47 (47)	
子を生んでいない 女性の割合	20.5	22.3	24.2	17.6	31.4	25.3	27.0	28.4	29.4	29.4	
	48 (46)	49 (45)	50 (44)	51 (43)	52 (42)	53 (41)	54 (40)				
子を生んでいない 女性の割合	29.7	29.1	28.5	29.1	28.6	28.2	27.6				
【30歳】											(%)
	昭和28年 生まれ (66歳)	29 (65)	30 (64)	31 (63)	32 (62)	33 (61)	34 (60)	35 (59)	36 (58)	37 (57)	
子を生んでいない 女性の割合	18.0	18.3	21.1	21.2	22.1	25.6	26.1	28.4	30.4	32.4	
	38 (56)	39 (55)	40 (54)	41 (53)	42 (52)	43 (51)	44 (50)	45 (49)	46 (48)	47 (47)	
子を生んでいない 女性の割合	34.9	37.2	39.6	35.2	47.0	43.0	45.3	47.2	48.9	49.8	
	48 (46)	49 (45)	50 (44)	51 (43)	52 (42)	53 (41)	54 (40)	55 (39)	56 (38)	57 (37)	
子を生んでいない 女性の割合	51.0	51.5	52.3	53.5	54.0	54.2	53.9	54.5	54.5	54.6	
	58 (36)	59 (35)	60 (34)	61 (33)	52 (32)	63 (31)	平成元年 (30)				
子を生んでいない 女性の割合	54.7	54.7	54.6	54.7	55.5	56.3	56.6				

注：1）（ ）内の年齢は令和元年時点の年齢である。
2）昭和41年と42年生まれについては「ひのえうま」の影響に留意する必要がある。

参考 女性の未婚率

－ 40歳時点（平成7・12・17・22・27年）、30歳時点（昭和60・平成2・7・12・17・22・27年）－

【40歳】						(%)	【30歳】						(%)	
	平成7年 (64歳)	12 (59)	17 (54)	22 (49)	27 (44)		昭和60年 (64歳)	平成2 (59)	7 (54)	12 (49)	17 (44)	22 (39)	27 (34)	
女 性 の 未 婚 率	7.6	10.0	14.1	19.0	20.1		女 性 の 未 婚 率	14.0	18.9	26.2	33.9	39.9	41.5	40.4

注：1）（ ）内の年齢は令和元年時点の年齢である。
2）国勢調査（総務省統計局）に基づいて作成。